

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600384		
法人名	株式会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム樽川ふれあいはうす ユニット1		
所在地	石狩市樽川3条2丁目97番地		
自己評価作成日	平成28年7月21日	評価結果市町村受理日	平成28年8月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域でのイベントや行事、他のグループホームとの交流にも積極的に参加しています。年に数回、全ユニットでの行事がある。ボランティアが来たときは、他のユニットにも声をかけ、交流を深めています。1日の中で、少しでも多くの笑顔が出るようにスタッフ間で話し合いをしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani%3D%3E&amp;JigvosyoCd=0177600384-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani%3D%3E&amp;JigvosyoCd=0177600384-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年8月19日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石狩市樽川地区の緑豊かな住宅地に建つ、2階建て2ユニットの事業所である。近くには、公園・小学校・商店・飲食店等や、母体の法人が運営するグループホームもあり、年に一度は3館合同の運営推進会議を開催しており、認知症サポーター養成講座を開催した。また『認知症まちかど相談所』として、近隣住民の相談に応じている。事業所内は広くゆったりと造られており、ダイニングとリビングが分かれており、利用者は自分の好きな居場所でゆっくりと寛いで過ごしている。利用者の居室にはトイレ・洗面台・クローゼットを設置し、プライバシーや尊厳に配慮した造りになっており、ウッドデッキやベランダは、暖かい日の日光浴や昼食の場となっている。前庭には畑・花壇・ぶどう棚等があり利用者が丹精込めて育てており、毎日の世話や収穫が楽しみのひとつになっている。また玄関には、各利用者の帽子を用意し、外出したい時にすぐに掛付けられる体制を作っている。管理者と職員は『看取り介護』対象者の尊厳に十分配慮しながら、終末期の介護について医師・看護師・家族と連携し、心をこめた介護を行っている。地域密着型として、利用者本位を実践している温かい事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議の中で話し合いの場を持ったり、日々のケアの実践の場で立ち止まり、自ら振り返るように心掛けている	各ユニットの理念は、リビングやダイニングの目立つところ掲示している。新入社員の入職時には説明し、日々のケアの場面で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入 町内会主催の清掃 花いっぱい運動 夏祭り 防災訓練に参加している	町内の清掃や、花いっぱい運動に参加している。合同夏祭りや防災訓練には、地域の人々が参加交流をしている。また小学生の訪問もあり、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修会に参加している。内容は全体会議で報告し、情報を共有している。市の研修を受け 認知症まちかど相談所として看板を掲げている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催の中で活動を報告し、意見や提案を頂き、サービス向上に努めています 又地域の方々との交流の場として活用し、意見を反映できるようにしています。	利用者・家族・地域住民・包括支援センター職員・市高齢者支援課職員等が出席し、事故や避難訓練について話し合い、認知症サポーター養成講座を開催した。『認知症まちかど相談所』として、近隣住民の相談に対応している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問等があり、ホームの状況を見て頂き意見を頂いている 又、市内のグループホーム協議会の研修会にも積極的に参加するように心掛けている	石狩市保健福祉部の介護相談員が訪問し、利用者・家族・職員の相談に応じている。市高齢者支援課職員は運営推進会議にも出席し、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などの場において、身体拘束になる行為などを再確認することで、気づかないうちに身体拘束をしてしまう事のないように心掛けている。	夜間以外は施錠せず、鍵をかけない暮らしをしている。利用者の外出傾向には、気配り・目配りを徹底して見守り支援に取り組んでいる。マニュアルは事務室に完備し、拘束や虐待のない生活を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、ケア会議等で話し合い、日々の言動や行動で虐待の可能性がないか注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して理解できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームのケアに関する考え方や取り組みの説明を行っている。重度化や看取りについての対応など、詳細に説明し同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が何を考え、何をしたいのか、不満などないかをさりげなく聞き出す等思いに添えるよう努めている。又、スタッフ間でも共有し、反映できるようにしている	玄関には意見箱を設置し、公的機関の苦情相談窓口を見やすい場所に掲示している。家族来訪時には、会話の中から希望や要望をくみ取っている。	利用者家族の意見や要望を引き出す工夫として、質問内容や項目数を検討し作成した、無記名の家族アンケートの実施を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なユニット会議があり、全職員が意見を出せるようにしている	月に1度、全体会議が行われており、その後各ユニットに分かれケア会議が開かれている。随時個別面談に応じ、職員の意見や提案を聞く機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も定期的に来訪し、入居者様やスタッフと交流を持ち、向上心を引き出せるよう努めている。又、研修参加や資格取得に向けての取り組みも行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や道、協議会主催の研修に受講できるようにし、内容は全体会議にて報告し、職員全体が協力出来るようにしている。又、働きながら学ぶ機会を大切にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム連絡会議に参加して交流を深めたり、お互いにお祭りや行事に招待し合い、交流を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	ご家族を交えた面談を通じ、入居への不安を把握し、入居後もじっくり話を聞く機会を作り、信頼関係が築ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでじっくりと話し合い、本人やご家族の状況を把握し、入居後も適宜報告、相談を行い、信頼関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談する中で、本人やご家族の状況を把握し、何が必要なかを話し合い、支援の方向を見極めて、柔軟に対応出来る様に心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来るだけ自分でしていただき、出来ない所を支援するようにしている。又、笑いのある会話を心掛けたり、良い関係が築ける様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話、面会時等に日々の状況を詳しく伝えたくて要望等を聞くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人などに会いに行ったり、来訪時もゆっくりしていただけるよう配慮しています。	昔馴染みの友人や知人の訪問がある。また家族の面会も多く、居室でくつろいで過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ間で利用者同士の関係についての情報を共有し、個々に合った過ごし方が出来る様に配慮、他者とのふれあいの場面作りにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際にはお見舞いに行ったり、退院後についての相談があった際には、助言させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で観察している。ご本人の訴えや、希望等から課題や問題点を把握し改善を図っている。	個々の思いや意向は、日々の関わりの中で把握するよう努めている。困難な場合は、家族や関係者から情報を収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や面会時にご家族から、会話の中で情報を得て把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握すると共に、その時の身体的、精神的な変化を見極めながら把握する様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から要望や思いを聞き、その人らしく暮らせる様な計画が出来る様に適宜カンファレンスを行い、個々に出した意見を反映できる様にしている。	身体の変化や本人・家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中から気づいた事やアイデアを特記欄に記入し、情報を共有、プランに反映出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族からの要望に添い、柔軟に外出・外泊出来るように支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では市職員、民生委員の方に参加して頂く。近隣の学校との交流や、避難訓練には消防署の協力を得ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医と連携を図り、定期的受診や往診で体調の変化に配慮しています。	協力病院医師による訪問診療は月2回あり、個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。事業所には、看護師が勤務し利用者の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置、日常の健康管理をしており、24時間体制で連絡が取れる様にしている。又、日々の体調についての相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は本人への支援方法についての情報提供を行い、ご家族とも情報交換し、早期退院へ向けての連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご家族様より事前指定、重度化・看取りの方針について説明し、同意を得ている。又、随時意見を聞いている。	『重度化した場合の対応に係る指針』を文書化し、契約時に説明をしている。かかりつけ医や看護師とは随時話し合いを持ち、本人や家族の希望を重視した対応をしており、看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生術やAEDの講習会に参加し、緊急時に対応出来る様に努めている。又、緊急対応マニュアルを整備しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施、近隣の方にも参加を呼び掛けています。又、様々な防火に関する研修会にも参加している。	年2回、消防署の協力のもと利用者と共に避難訓練を行っている。地域には参加を呼びかけ協力を得ており、飲料水や食料品を備蓄している。	事業所は海岸に近く、近隣には高い建物がない場所に位置している。地震や、その後起こるであろう津波に対応できる防災訓練の実施と、寒さ対策としてポータブル石油ストーブを、備蓄品として準備することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄の声掛け等は、出来るだけ他者に気づかれぬよう、さりげなく声掛けするよう配慮している。	個人情報事務所で適切に管理しており、防犯カメラの使用は、家族の了解を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や飲みたい物、着たい服など、出来るだけご本人の意思を引き出せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気持ちを尊重し、日々、その方らしく暮らして頂ける様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や服装等、本人の意思を確認しながら一緒に準備する様心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き出してメニューに取り入れられる様にし、準備や後片付けも一緒に出来るような場面作りにも配慮している。	献立は全職員で考え、利用者の意見や嗜好を取り入れた食事を提供している。調理・盛り付け・片付け等を一緒に行い、共にテーブルを囲み和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、スタッフも一緒に食事する事で、量や好み、食べ方を把握、水分チェック表で確認しながら飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせて声掛け、自力で行えない方は介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に応じて、時間やパターン、本人のサインなどを把握し、出来るだけトイレで頂ける様に支援している。	しぐさや習慣等、個々のサインを見逃すことなくさりげなくトイレ誘導をし、排泄の自立支援をしている。各居室にはトイレが完備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事バランスや水分摂取量を管理すると共に、排便確認や医師から処方された下剤を服用することで予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけご本人の希望に沿った形で入浴して頂ける様に配慮している。拒否、体調不良の方は曜日を変えたり柔軟な対応もしている。	浴室は広く、三方向から介助できる浴槽を設置している。また羞恥心や尊厳に配慮し、同性介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調や気分に合わせて、ゆっくり休息出来るように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり、用法・容量について把握する様努めている。又、服薬忘れ、誤薬のないよう、声を掛け合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々によって掃除、食器拭き、音楽鑑賞等、、役割や楽しみが持てる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な方も車椅子を利用し積極的に戸外に出ることを支援。散歩や買い物と一緒に出掛けています。	近くには大きな公園があり、日常的に散歩に出掛けている。利用者の外出したい気持ちにすぐ答えられるように、玄関に全員分の帽子を用意している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの希望に応じて、お金が使えるようにしている。ご家族の協力を得て少額のお金も持っている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時、電話や手紙を出したり出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が混乱しない程度に配置換えをしたりカーテンによる日差しの調節、花などを飾って季節感をだすよう工夫している。	共用空間であるリビング・玄関等や、希望する利用者の居室にカメラを設置し、転倒事故等が起きたときの原因究明を通じた再発防止に取り組んでいる。設置については家族の了解を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とは別に、皆で一緒にくつろげるリビングがあり、ソファやテレビを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談の上、ベッドやタンス、椅子やテーブルなど、使い慣れた物を持ち込んで使っている方もいる。	各居室にはトイレ・洗面台・クローゼットを設置し、入居以前に飼っていたペットと同居の利用者もあり、リラックスして過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた声掛けをし、混乱を防ぎ安心安全に生活が送れるように配置している。手すり設置 バリアフリー等		